

検査項目と基準範囲一覧

国立病院機構相模原病院

一覧に掲載されている検査項目は、当院の代表的な項目です。基準範囲および検査内容の解説に関しては、ひとつの目安として参考にしてください。
結果の判断や下記以外の項目などご不明な点については担当医にご相談ください。

| 検査項目 | | 基準範囲 | 単位 | 検査内容の解説 |
|--------|--------------|---------------------|-----------------------------|---|
| 生化学的検査 | TP | 総蛋白 | 6.6~8.1 | g/dl 血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。 |
| | ALB | アルブミン | 4.1~5.1 | g/dl 肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。 |
| | T-Bil | 総ビリルビン | 0.4~1.5 | mg/dl 胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。 |
| | D-Bil | 直接ビリルビン | 0.3以下 | mg/dl ビリルビンのうち肝臓で処理されたもので、肝胆道疾患の更に詳しい判定の指標となります。 |
| | AST | アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ | 13~30 | U/l 肝臓・心臓・筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。 |
| | ALT | アラニンアミノトランスフェラーゼ | 男 10~42 女 7~23 | U/l 肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。 肝臓細胞の障害を敏感に反映します。 |
| | LD | 乳酸デヒドロゲナーゼ | 124~222 | U/l 広く体内各臓器に存在する酵素で、臓器の損傷の程度をみる一次的な検査として重要です。 特に肝臓や血液の病気などで高くなります。 |
| | ALP | アルカリホスファターゼ | 38~113 | U/l 肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。 |
| | CHE | コリンエステラーゼ | 男 240~486 女 201~421 | U/l 肝臓の病気で低くなり、有機リン剤による中毒でも低くなります。 脂肪肝では高くなります。 |
| | Y-GT | ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ | 男 13~64 女 9~32 | U/l 肝臓や胆道の病気で異常を示し、アルコール性肝障害でも高くなります。 |
| | CK | クレアチニンキナーゼ | 男 59~248 女 41~153 | U/l 心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。 心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気で高くなります。 |
| | AMY | アミラーゼ | 44~132 | U/l 脾臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、脾臓や唾液腺の病気で高くなります。 |
| | UA | 尿酸 | 男 3.7~7.8 女 2.6~5.5 | mg/dl 細胞をつくる際の成分であるプリン体が分解してできた老廃物で腎臓から排泄されます。 痛風や腎臓の機能障害の指標になります。 |
| | CRE | クレアチニン | 男 0.65~1.07 女 0.46~0.79 | mg/dl 運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。 腎臓の機能をみています。 |
| | BUN | 尿素窒素 | 8~20 | mg/dl 蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。 |
| | T-CHO | 総コレステロール | 128~219 | mg/dl 体の脂肪成分の一つで、血管を強化する物質として重要です。多すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。 |
| | TG | 中性脂肪 | 30~149 | mg/dl 体の脂肪成分の一つで、多すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。 |
| | HDL-C | HDLコレステロール | 40以上 | mg/dl 善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。 |
| | LDL-C | LDLコレステロール | 70~140 | mg/dl 悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管壁に溜まり、動脈硬化が促進します。動脈硬化の直接的な危険因子です。 |
| | Na | ナトリウム | 138~145 | mEq/l |
| | K | カリウム | 3.6~4.8 | mEq/l 体内の水分調節の状態をみます。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで高くなったり低くなったりします。 |
| | Cl | クロール | 101~108 | mEq/l |
| | Ca | カルシウム | 8.8~10.1 | mg/dl 骨の病気やさまざまな内分泌の病気で変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。 |
| | IP | 無機リン | 2.7~4.6 | mg/dl 体内では骨に存在しカルシウムと結合しています。内分泌や骨の代謝異常の有無をカルシウムと組みあわせることで病気の診断に役立ちます。 |
| | Fe | 鉄 | 40~188 | μg/dl 酸素を運ぶヘモグロビンの構成物質の一つです。出血や鉄欠乏性貧血で低くなり、肝臓に障害が生じた時は高くなります。 |
| | UIBC | 不飽和鉄結合能 | 100~320 | μg/dl 鉄とともに貧血などの鑑別診断や鉄代謝異常の診断の指標となります。 |
| | GLU | グルコース/血糖 | 全血 80~112 血清 73~109 | mg/dl 血液中のブドウ糖濃度で体のエネルギーとして大切な栄養素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査します。 |
| | HbA1c (NGSP) | ヘモグロビン A1c NGSP | 4.9~6.0 | % 過去1~2ヶ月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値の管理に有用です。 |
| | NH3 | アンモニア | 80以下 | μg/dl 肝機能障害時に上昇します。 |
| | CRP | C反応性蛋白 | 0.14以下 | mg/dl 体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。 |
| | RF | リウマチ因子 | 14以下 | IU/ml 関節リウマチや膠原病で陽性率が高くなります。 |
| | MMP-3 | マトリックスメタロプロティナーゼ3 | 男 36.9~121.0 女 17.3~59.7 | ng/ml 関節炎の有無や程度を判断するために測定します。 |
| | BNP | 脳性ナトリウム利尿ペプチド | 18.4以下 | pg/ml 心臓の状態を判断するための検査で、主に心不全で高くなります。 |
| 腫瘍マーカー | AFP | αフェトプロテイン | 0~13.3 | ng/ml 肝臓がんで高くなります。肝炎や肝硬変でもやや高くなります。 |
| | CEA | 癌胎児性抗原 | 0~5 | ng/ml 消化器のがんや肺がんなどで高くなります。高齢や喫煙でもやや高くなります。 |
| | CA19-9 | CA19-9 | 0~37 | U/ml 脾臓や胆道の腫瘍で高くなります。糖尿病、胆石症、慢性の肺の病気でもやや高くなります。 |
| | CA125 | CA125 | 0~35 | U/ml 卵巣腫瘍、子宫体部腫瘍で高くなります。 |
| | PSA | 前立腺特異抗原 | 0~4 | ng/ml 前立腺腫瘍で早期から高くなります。前立腺肥大症や前立腺炎でも高くなるので鑑別が必要です。 |

検査項目と基準範囲一覧

国立病院機構相模原病院

一覧に掲載されている検査項目は、当院の代表的な項目です。基準範囲および検査内容の解説に関しては、ひとつの目安として参考にしてください。
結果の判断や下記以外の項目などご不明な点については担当医にご相談ください。

| 検査項目 | | 基準範囲 | 単位 | 検査内容の解説 | |
|--------|-----------------------|---|----------------------------|-----------------------|---|
| 血液学的検査 | WBC | 白血球数 | 3.3~8.6 | x10 ³ / μl | 血液の成分の一つで、異物の進入に対抗して体を守る働きをしています。 少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。 白血球数の増減を知ることで、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。 |
| | RBC | 赤血球数 | 男 4.35~5.55 女 3.86~4.92 | x10 ⁶ / μl | |
| | Hb | ヘモグロビン濃度 | 男 13.7~16.8 女 11.6~14.8 | | 赤血球は体のさまざまな細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしています。 この中心的役割を担っているのがヘモグロビンです。ヘマトクリットは、血液中に含まれる赤血球の割合を%で表します。 これらが低ければ血液が薄いということを意味しており、貧血が疑われます。 |
| | Ht | ヘマトクリット値 | 男 40.7~50.1 女 35.1~44.4 | % | |
| | MCV (Ht/RBCx10) | 平均赤血球容積 | 83.6~98.2 | f1 | |
| | MCH (Hb/RBCx10) | 平均赤血球ヘモグロビン量 | 27.5~33.2 | pg | 赤血球数・ヘモグロビン量・ヘマトクリット値から計算する指数で赤血球の体積や色の濃さを表し、貧血の原因を鑑別する手がかりが得られます。 |
| | MCHC (Hb/Ht×100) | 平均赤血球ヘモグロビン濃度 | 31.7~35.3 | % | |
| | PLT | 血小板数 | 158~348 | x10 ³ / μl | 血液の成分の一つで、血管に傷が出来ると直ちにふたをして血を止める働きをしています。 血小板の数が減少したり、その機能が低下すると血が止まりにくくなります。 |
| | 末梢血液像：血液中の細胞の種類を分類します | | | | |
| | 血液像 | Neut (好中球) | 10~80 | % | 白血球には、好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球の5種類が含まれていて、顕微鏡で種類ごとに数などを検査します。 病気によって増減する白血球の種類が変わるので、種類ごとの増減数を調べることで病気や症状を知る手がかりになります。 |
| | | Lymp (リンパ球) | 5~50 | % | |
| | | Mono (単球) | 1~15 | % | |
| | | Eos (好酸球) | 0~6 | % | |
| | | Baso (好塩基球) | 0~4 | % | |
| | Ret | 網赤血球数 | 0~20 | % | 生まれたての若い赤血球で、骨髄での赤血球の造血能力を把握できる検査です。 |
| | PT | プロトロンビン時間 | 70~130 | % | 血液の凝固異常を調べる検査です。ワルファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。 |
| | APTT | 活性化部分トロンボプラスチン時間 | 24~34 | 秒 | 血液の凝固異常を調べる検査です。血友病など出血性の病気の診断やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。 |
| | Fib | フィブリノゲン | 200~400 | mg/dl | 止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固(出血時に自然に血液が固まる)の仕組みに異常を来たす病気などで低くなります。高い場合は炎症の指標となります。 |
| | ESR | 赤血球沈降速度 | 男 30分値 1~5 60分値 2~10 | mm | 赤血球が試験管内を沈んでいく速度を測定する検査で、感染症や炎症性の病気などで進みが早くなります。 |
| | | | 女 30分値 2~7 60分値 3~15 | mm | |
| | | | | | |
| 感染症検査 | HBsAg | HBs抗原 | (-) | 参考値 | B型肝炎に感染しているかどうかがわかります。 |
| | HBsAb | HBs抗体 | (-) | | B型肝炎を発症して治癒した人、またはB型肝炎ワクチンを接種した人が陽性となります。 |
| | HCVAb | HCV抗体 | (-) | | C型肝炎に感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。 |
| 尿一般検査 | 尿定性 | 尿定性：尿中の蛋白、糖、潜血等の成分を試験紙法で調べます。食事、薬剤、運動等の影響を受けます。そのため結果の評価には問診や他の検査を組み合わせ総合的に評価します。 | | | |
| | | 比重 | 1.003~1.035 | 参考値 | 腎での尿の濃縮力を知る指標の一つです。 |
| | | pH | 5.5~8.0 | | 生体内の酸・塩基平衡状態をある程度推定できます。 |
| | | 尿蛋白 | (-) | | 腎機能に障害があると蛋白の再利用が出来にくくなり、尿中に蛋白が漏れ出て尿蛋白(+)となります。運動後やストレスなどでも(+)になることがあります。 |
| | | 尿潜血 | (-) | | 肉眼では見えないわずかな尿血の状態を「潜血」といい、腎臓から尿道までの出血の有無がわかります。 |
| | | 尿糖 | (-) | | 高血糖、肥満、膀胱炎、肝硬変、腎機能障害で(+)になります。糖の再利用が出来にくくなると尿中に漏れ出できます。運動後やストレスなどでも(+)になることがあります。 |
| | | ケトン体 | (-) | | 糖代謝不全を推測できます。 |
| | | ビリルビン | (-) | | |
| | | ウロビリノーゲン | (±) | | 肝・胆道系障害のスクリーニング検査になります。 |
| | | 亜硝酸塩 | (-) | | 膀胱炎や腎盂腎炎などの尿路感染症(細菌の有無)のスクリーニングに役立ちます。 |
| | | 白血球 | (-) | | 尿路の炎症性疾患の有無が推測できます。 |
| | 尿沈渣 | 尿沈渣：尿中の有形成分を顕微鏡で調べます。 | | | |
| | 便潜血 | ヘモグロビンおよびトランスフェリン | (-) | 参考値 | 消化管からの出血の有無を調べる検査で、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、大腸がんで陽性となるほか、痔などで出血しているときにも陽性になります。 |

2025年4月1日改訂